



企業経営への考察

令和7年9月18日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

企業が仲良しごっこになってはいけない。それらグループに迎合し、経営に対しての諫言を求められないことは、経営に理解を与えないのである。

これらは企業経営が最もシビアな現実であるためであり、それが唯一企業の永続を与える選択であるからである。

これら、企業のために、自己を行うことは、企業が正しい待遇を与えなくてはならない。これらが、企業に未来を与えるものであり、健全な意欲の育成であるからである。

これらはビジネス社会という現実への正しい考察を要求するものである、日本社会の右倣えという現実において、企業の倒産を与えたことは多々あるのである。

これらは真摯に企業に向き合うことは、決して迎合することではないのである。

これら厳しさという正しい企業風土が未来を実現できるものなのである。

これらは企業の経営への正しい考察であり、成熟した自己が正しい経営を与えることへの正しい理解である。

これら大人の世界における現実とは、自立した存在がその自己をかけ、経営を行うものであり、競争というルールにおいて企業経営はその厳しさを得ない限り、経営が成り立たないのである。

これらは最も非情な選択を求めることが正しいということは必ずあるのである。

これらは経済という現実生きるものへの正しい理解であり、それら現実生きることはそのコンセンサスを要求するものである。

厳しさが未来を与えるものであり、決して寛容さが与えるものではない。それが競争原理における市場原理という企業の生きる場なのである。